

取扱説明書 - 日本語



ServerView Suite

# ServerView Threshold Manager

ServerView Operations Manager V5.0

2010年10月版

## **DIN EN ISO 9001:2008 に準拠した 認証を取得**

高い品質とお客様の使いやすさが常に確保されるように、

このマニュアルは、DIN EN ISO 9001:2008

基準の要件に準拠した品質管理システムの規定を

満たすように作成されました。

cognitas. Gesellschaft für Technik-Dokumentation mbH

[www.cognitas.de](http://www.cognitas.de)

## **著作権および商標**

Copyright © 1998 – 2010 Fujitsu Technology Solutions.

All rights reserved.

お届けまでの日数は在庫状況によって異なります。技術的修正の権利を有します。

使用されているハードウェア名とソフトウェア名は、各メーカーの商標名および商標です。

Microsoft、Windows、Windows Server、および Hyper V は、米国およびその他の国における

Microsoft Corporation の商標または登録商標です。

Intel および Xeon は、米国 Intel Corporation またはその関連会社の米国およびその他の国にお

ける登録商標または商標です。

---

# 目次

目次	3
1 はじめに	5
1.1 スレッシュホールドマネージャのコンセプト	6
1.1.1 監視されるパラメータ	7
1.1.1.1 物理サーバの監視されるパラメータ	7
1.1.1.2 VM ホストの管理されるパラメータ	8
1.1.1.3 仮想マシンの管理されるパラメータ	10
1.1.2 パラメータに定義できる値	11
1.1.3 しきい値セットの定義	14
1.1.4 テンプレートの定義	14
1.1.5 標準テンプレートの定義	15
1.1.6 異なるしきい値定義の順位付け	15
1.1.6.1 サンプルテンプレート	16
1.2 要件	20
1.3 ServerView Suite のマニュアル	26
1.4 表記規則	26
2 スレッシュホールドマネージャのメインウィンドウ	29
2.1 ツリー構造	30
2.2 サーバリスト	33
2.3 サーバビュー	36
2.4 テンプレートリスト	39
2.5 テンプレートビュー	41
2.5.1 パラメータ(タブ)	43
2.5.2 対象サーバ(タブ)	45
2.6 「設定」タブ	47
2.7 「フィルタ」ダイアログボックス	49
2.7.1 標準(フィルタダイアログボックス)	49
2.7.2 文字列(フィルタダイアログボックス)	50
2.7.3 整数(Filter Dialog Box)	51
3 スレッシュホールドマネージャの使用	53
3.1 スレッシュホールドマネージャを開く	53
3.2 スレッシュホールドマネージャを閉じる	53
3.3 しきい値管理の無効化/有効化	54
3.4 パフォーマンス監視の無効化/有効化	55
3.4.1 個々のサーバのパフォーマンス監視の無効化/有効化	55
3.4.2 すべてのサーバのパフォーマンス監視の無効化/有効化	55
3.5 サーバ固有のしきい値セットの作成	56
3.5.1 新しいしきい値セットの定義	56
3.5.2 テンプレートに基づくしきい値セットの定義	57
3.6 テンプレートの作成と管理	58

3.6.1 新しいテンプレートの定義.....	58
3.6.2 テンプレートの変更.....	59
3.6.3 テンプレートの名前の変更.....	59
3.6.4 テンプレートの削除.....	60
3.6.5 テンプレートの割り当て.....	61
3.6.6 テンプレートの割り当ての削除.....	62
3.6.7 標準テンプレートの定義.....	63
3.7 テーブルのフィルタリング.....	64
<b>4 Help のヘルプ.....</b>	<b>65</b>
4.1 Help の呼び出し.....	65
4.2 お気に入りへ保存.....	65
4.2.1 トピックをお気に入りへ保存.....	65
4.2.2 検索結果をお気に入りへ保存.....	65
4.3 Help の検索.....	66

---

# 1 はじめに

ServerView Operations Manager が提供するスレッシュホールドマネージャでは、しきい値を使用して、現在管理されている 1 つ以上のサーバおよびそれらのサーバ上で実行中の仮想マシンを、管理用サーバから監視することができます。

監視を行うには、管理されているサーバに関連するさまざまなパフォーマンスパラメータのしきい値を定義します。これらのパラメータは、しきい値の集合体(しきい値セット)としてグループ化され、サーバに保存されます。ServerView エージェントは定義されたしきい値を使用して、パフォーマンスパラメータを監視します。しきい値を超える、または下回る場合、ServerView イベントマネージャにはその状況が通知されます。

例えば、このしきい値セットを使用して、現在管理されているサーバ上の、特定のサーバコンポーネントの稼働率を監視し、それにより適宜なリソース障害を検出します。


スレッシュホールドマネージャはグラフィカルユーザーインターフェースを使用して、現在管理されているサーバ上にしきい値のセットの作成および割り当てを行います。

## 1.1 スレッシュホールドマネージャのコンセプト

スレッシュホールドマネージャでは、サーバのしきい値監視をカスタマイズすることができます。しきい値管理では、次の3つの異なるサーバタイプの監視をサポートします。

- 物理サーバ
- 仮想化ホスト
- ゲストシステム

これらの3つのサーバタイプはそれぞれ、定義されたしきい値を使用して監視可能なサーバタイプ固有のパラメータセットで構成されています。

 スレッシュホールドマネージャを有効にするには、「設定」タブで「パフォーマンス監視を有効にする」および「しきい値管理を有効にする」オプションを有効にする必要があります。

オプションが有効になると、スレッシュホールドマネージャはさまざまなサーバタイプのデフォルトテンプレートを使用して、すべての管理対象サーバ(すべてのサーバ)の監視を開始します。

個々のサーバのしきい値監視を無効にする方法については、[55 ページのパフォーマンス監視の無効化/有効化](#)セクションを参照してください。

## 1.1.1 監視されるパラメータ

### 1.1.1.1 物理サーバの監視されるパラメータ

パラメータ	意味
cpuAll(%)	物理プロセッサの利用状況
cpuKernel(%)	カーネルモードでのすべての物理プロセッサの利用状況
cpuUser(%)	ユーザモードでのすべての物理プロセッサの利用状況
memory(%)	現在使用中のメモリ
networkReceive(KB/秒)	受信ネットワークスループット
networkTotal(KB/秒)	受信および送信ネットワークスループット
networkTransmit(KB/秒)	送信ネットワークスループット
storageUsage(%)	ファイルシステムの利用状況

## 1.1.1.2 VM ホストの管理されるパラメータ

パラメータ	意味	1	2	3
capacityReserved(%)	仮想マシンによって予約されるメモリ量	x		
cpuAll(%)	物理プロセッサの利用状況	x	x	x
cpuKernel(%)	カーネルモードでのすべての物理プロセッサの利用状況	x	x	
cpuMin	すべての仮想マシンのリソース CPU の利用状況	x		
cpuUser(%)	ユーザモードでのすべての物理プロセッサの利用状況	x	x	
cpuVM(%)	すべての仮想マシンのリソース CPU の利用状況(平均)	x	x	
memory(%)	現在使用中のメモリ	x	x	x
memoryVM(%)	許可されたメモリ量から使用されるメモリ量。ホストの場合、これを仮想マシンベースで積み重ねグラフとして表示できます。	x		
networkReceive(KB/秒)	受信ネットワークスループット	x	x	x
networkTotal(KB/秒)	受信および送信ネットワークスループット	x	x	x
networkTransmit(KB/秒)	送信ネットワークスループット	x	x	x
storageRead(KB/秒)	外部記憶装置の読み取りスループット(VMホストおよび、このVMホスト上のすべての仮想マシン)	x	x	x
storageTotal(KB/秒)	外部記憶装置の読み込みおよび書き込みスループット(VMホストおよび、このVMホスト上のすべての仮想マシン)	x	x	x



パラメータ	意味	1	2	3
storageWrite( KB/秒)	外部記憶装置の読み込みおよび書き込みスループット( VM ホストおよび、この VM ホスト上のすべての仮想マシン)	x	x	x

上記表の 1、2、3 の列は、上記パラメータに、どのシステムが値を返すかを示しています(1: VMware ESX、2: Hyper-V、3: Xen)。

## 1.1.1.3 仮想マシンの管理されるパラメータ

パラメータ	意味	1	2	3
cpuAll(%)	物理プロセッサの利用状況			x
cpuH(%)	ホストプロセッサの利用状況		x	
cpuMax(%)	収集間隔におけるプロセッサの最大利用状況(%)	x		
cpuMin(%)	収集された間隔におけるプロセッサの最小利用状況(%)	x		
cpuV(%)	仮想プロセッサの利用状況	x	x	
memory(%)	この仮想マシンで使用する物理ホストのメモリ	x		x
networkReceive(KB/秒)	ネットワークの受信スループット(この仮想マシンによる)	x	x*	x
networkTotal(KB/秒)	ネットワークの受信および送信スループット(この仮想マシンによる)	x	x*	x
networkTransmit(KB/秒)	ネットワークの送信スループット(この仮想マシンによる)	x	x*	x
storageRead(KB/秒)	外部記憶装置の読み込みスループット(この仮想マシンによる)	x	x	
storageTotal(KB/秒)	外部記憶装置の読み込みおよび書き込みスループット(この仮想マシンによる)	x	x	
storageWrite(KB/秒)	外部記憶装置の書き込みスループット(この仮想マシンによる)	x	x	

上記表の1、2、3の列は、上記パラメータに、どのシステムが値を返すかを示しています(1: VMware ESX, 2: Hyper-V, 3: Xen)。

(1) Legacy Virtualネットワークアダプターの場合のみ

## 1.1.2 パラメータに定義できる値

各パラメータに5つの値を定義できます。

- 下限しきい値(警告しきい値(下限))。
 

測定値が下限しきい値を下回るとシステムがエラーメッセージを発行し、ステータスが**警告**になります。
- 上限しきい値 1(警告しきい値(上限))。
 

測定値が上限しきい値 1を上回るとシステムがエラーメッセージを発行し、ステータスが**警告**になります。
- 上限しきい値 2(異常しきい値(上限))。
 

測定値が上限しきい値 2を上回るとシステムがエラーメッセージを発行し、ステータスが**異常**になります。
- 測定間隔(測定間隔)。
 

測定間隔には、各測定間の時間間隔(分単位)を指定します。システムがメッセージを発行する前に、しきい値間隔内で複数の測定が行われるように、測定間隔は必ずしきい値間隔よりも短く設定します。
- しきい値間隔(しきい値間隔)。
 

しきい値間隔には時間(分単位)を指定します。この時間内のしきい値の平均値が上限または下限を外れるかによって、システムは該当するメッセージ(**正常**、**警告**、**異常**のいずれか)を発行します。

そのため、しきい値によって以下のアクションが発生します。

値	結果
0と警告しきい値(下限)の間	エラーメッセージとステータス <b>警告</b>
警告しきい値(下限)と警告しきい値(上限)の間	エラーメッセージとステータス <b>正常</b>
警告しきい値(上限)と異常しきい値(上限)の間	エラーメッセージとステータス <b>警告</b>
異常しきい値(上限)を超える	エラーメッセージとステータス <b>異常</b>

### しきい値定義の結果

値の増加により生成されるイベント

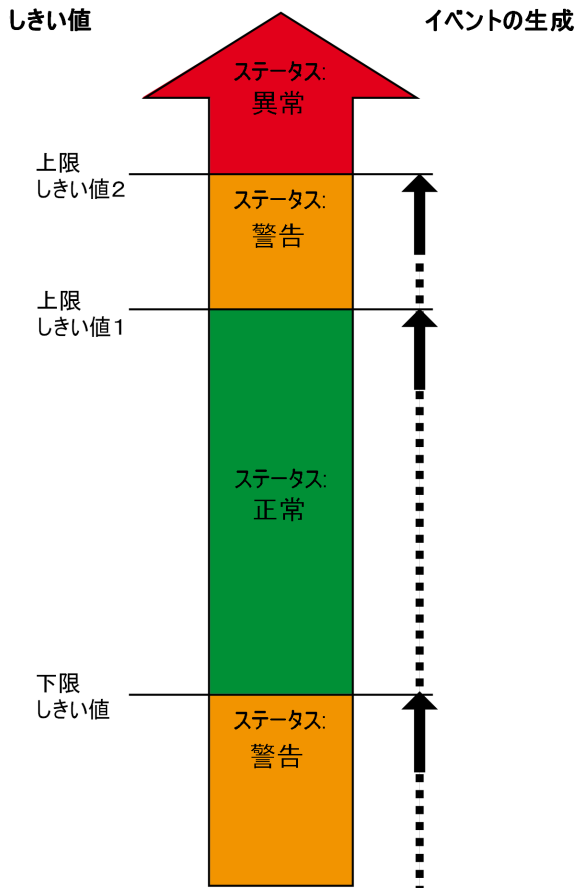


図 1: 値の増加により生成されるイベント

## 値の減少により生成されるイベント

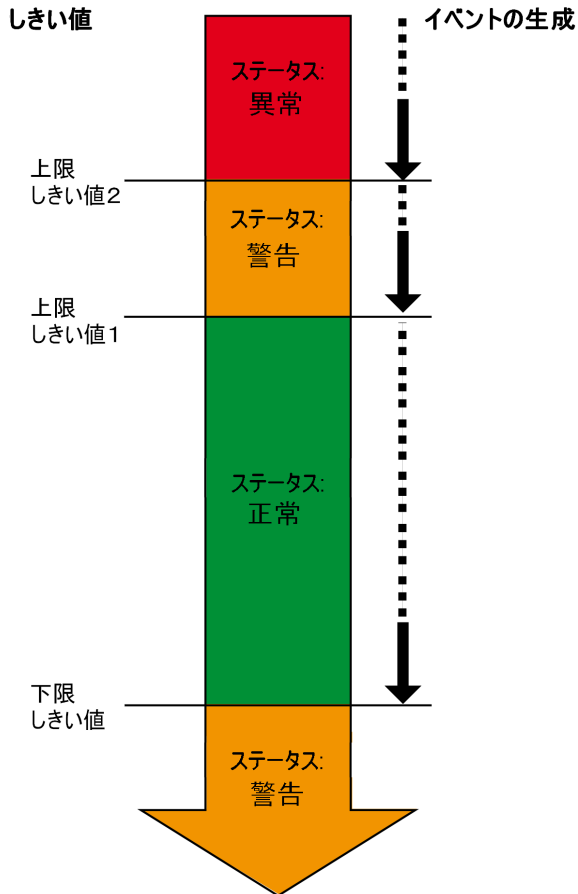


図 2: 値の減少により生成されるイベント

### 1.1.3 しきい値セットの定義

通常は複数のサーバパラメータを監視するので、監視するパラメータのすべてのしきい値を同時に定義します。監視するパラメータのしきい値定義は、しきい値セットとされる集合体にグループ化されます。

しきい値セットを定義する方法は2通りあります。

1. 1つのサーバに特定のしきい値セットを定義できます。この定義はサーバ固有の定義として存在します。
2. しきい値セットに名前を割り当てて保存できます。このセットを使用して、しきい値定義セット全体を1つのサーバまたはサーバのグループに割り当てることができます。事前定義されたしきい値セットはテンプレートとして存在します。テンプレートは、スレッシュホールドマネージャのテンプレート領域に保存され、管理されます。

### 1.1.4 テンプレートの定義

サーバの種類に応じてしきい値セットを定義し、そのセットに名前を割り当てることができます。さらに、このセットを使用して、しきい値定義セット全体を1つのサーバまたはサーバのグループに割り当てます。このような事前定義されたしきい値セットはテンプレートとして存在します。

監視可能なパラメータの範囲はサーバタイプ(物理サーバ、VMホスト、ゲストシステム)によって異なるので、テンプレートには3つのカテゴリがあります(58ページの [新しいテンプレートの定義](#)を参照)。

### 1.1.5 標準テンプレートの定義

テンプレートを、特定のサーバの種類に対応する標準のテンプレートとして定義することができます。次に示すとおり、合計で3つの標準テンプレートの定義が可能です。

1. 物理サーバの標準テンプレート
2. VM化ホストの標準テンプレート
3. ゲストシステム(仮想システム)の標準テンプレート

定義された標準テンプレートは、しきい値セットが未設定の、関連するサーバすべてに対して自動的に有効になります( [63 ページの標準テンプレートの定義](#)をご覧ください)。

### 1.1.6 異なるしきい値定義の順位付け

サーバのしきい値は以下の3種類のレベルで定義できます。

- サーバ専用のしきい値の定義
- 適切なテンプレートの割り当て
- 対応するサーバタイプ用の標準のテンプレートの定義

言い換えると、1つのサーバに複数の定義を同時に作成できます。ただし、そのサーバに有効な定義は1つだけです。この場合、次のような順位付けになります。

1. サーバ固有の定義
2. サーバに割り当てられたテンプレート
3. サーバの種類用の標準テンプレート

## 例

- テンプレートがサーバグループに割り当てられているが、このサーバグループのサーバに固有の定義がすでに存在する場合、このサーバ固有の定義は引き続きこのサーバに有効となります。
- 「すべてのサーバ」サーバグループのサーバリストに登録されているサーバに対して、スレッシュホールドマネージャで固有の設定が行われていない場合、しきい値は対応するサーバタイプの標準テンプレートを使用して監視されます。

### 1.1.6.1 サンプルテンプレート

スレッシュホールドマネージャにはサンプルテンプレートが付属します。以下の2つのサンプルテンプレートを各サーバタイプ(物理サーバ、VMホスト、仮想マシン)に使用できます。

- 負荷(I/O および CPU)を監視するためのテンプレート
- 電力消費を監視するためのテンプレート(CPU 負荷が特定レベル未満になった場合に警告)

負荷を監視するためのサンプルテンプレートは、各サーバタイプのデフォルトテンプレートとして定義されます。



## 物理サーバ用のデフォルトテンプレート(Load1/Energy1)

パラメータ		対象サーバ					
パラメータ	△	しきい値 間隔	測定 間隔	警告しきい値 (下限)	警告しきい値 (上限)	異常しきい値 (上限)	▽
cpuAll (%)			5	1	0.0	80.0	90.0
cpuKernel (%)			5	1	0.0	80.0	90.0
cpuUser (%)			5	1	0.0	80.0	90.0
memory (%)			5	1	0.0	80.0	90.0
networkReceive (kB/sec)			5	1	0.0	60000.0	80000.0
networkTotal (kB/sec)			5	1	0.0	120000.0	160000.0
networkTransmit (kB/sec)			5	1	0.0	60000.0	80000.0
storageRead (kB/sec)			5	1	0.0	7000.0	10000.0
storageTotal (kB/sec)			5	1	0.0	14000.0	20000.0
storageUsage (%)			5	1	0.0	80.0	90.0
storageWrite (kB/sec)			5	1	0.0	7000.0	10000.0

図 3: 負荷 1

パラメータ		対象サーバ					
パラメータ	△	しきい値 間隔	測定 間隔	警告しきい値 (下限)	警告しきい値 (上限)	異常しきい値 (上限)	▽
cpuAll (%)			5	1	10.0	80.0	90.0
cpuKernel (%)			5	1	10.0	80.0	90.0
cpuUser (%)			5	1	10.0	80.0	90.0
memory (%)			5	1	0.0	80.0	90.0
networkReceive (kB/sec)			5	1	0.0	60000.0	80000.0
networkTotal (kB/sec)			5	1	0.0	120000.0	160000.0
networkTransmit (kB/sec)			5	1	0.0	60000.0	80000.0
storageRead (kB/sec)			5	1	0.0	7000.0	10000.0
storageTotal (kB/sec)			5	1	0.0	14000.0	20000.0
storageUsage (%)			5	1	0.0	80.0	90.0
storageWrite (kB/sec)			5	1	0.0	7000.0	10000.0

図 4: 電力消費 1

## 1 はじめに

### VMHost 用のデフォルトテンプレート( Load2/Energy2)

パラメータ		対象サーバ					
パラメータ	△ しきい値 間隔	▽ 測定 間隔	▽ 警告しきい値 (下限)	▽ 警告しきい値 (上限)	▽ 異常しきい値 (上限)	▽	
capacityReserved (%)		5	1	0.0	80.0	90.0	
cpuAll (%)		5	1	0.0	80.0	90.0	
cpuKernel (%)		5	1	0.0	80.0	90.0	
cpuMin (%)		5	1	0.0	80.0	90.0	
cpuUser (%)		5	1	0.0	80.0	90.0	
cpuVM (%)		5	1	0.0	80.0	90.0	
memory (%)		5	1	0.0	80.0	90.0	
memoryVM (%)		5	1	0.0	80.0	90.0	
networkReceive (kB/sec)		5	1	0.0	60000.0	80000.0	
networkTotal (kB/sec)		5	1	0.0	120000.0	160000.0	
networkTransmit (kB/sec)		5	1	0.0	60000.0	80000.0	
storageRead (kB/sec)		5	1	0.0	7000.0	10000.0	
storageTotal (kB/sec)		5	1	0.0	14000.0	20000.0	
storageWrite (kB/sec)		5	1	0.0	7000.0	10000.0	

図 5: 負荷 2

パラメータ		対象サーバ					
パラメータ	△ しきい値 間隔	▽ 測定 間隔	▽ 警告しきい値 (下限)	▽ 警告しきい値 (上限)	▽ 異常しきい値 (上限)	▽	
capacityReserved (%)		5	1	0.0	80.0	90.0	
cpuAll (%)		5	1	10.0	80.0	90.0	
cpuKernel (%)		5	1	10.0	80.0	90.0	
cpuMin (%)		5	1	10.0	80.0	90.0	
cpuUser (%)		5	1	10.0	80.0	90.0	
cpuVM (%)		5	1	10.0	80.0	90.0	
memory (%)		5	1	0.0	80.0	90.0	
memoryVM (%)		5	1	0.0	80.0	90.0	
networkReceive (kB/sec)		5	1	0.0	60000.0	80000.0	
networkTotal (kB/sec)		5	1	0.0	120000.0	160000.0	
networkTransmit (kB/sec)		5	1	0.0	60000.0	80000.0	
storageRead (kB/sec)		5	1	0.0	7000.0	10000.0	
storageTotal (kB/sec)		5	1	0.0	14000.0	20000.0	
storageWrite (kB/sec)		5	1	0.0	7000.0	10000.0	

図 6: 電力消費 2

## 仮想マシン用のデフォルトテンプレート(Load3/Energy3)

パラメータ		対象サーバ					
パラメータ	△	しきい値 間隔	測定 間隔	警告しきい値 (下限)	警告しきい値 (上限)	異常しきい値 (上限)	▽
capacityReserved (%)			5	1	0.0	80.0	90.0
cpuAll (%)			5	1	0.0	80.0	90.0
cpuH (%)			5	1	0.0	80.0	90.0
cpuMax (%)			5	1	0.0	80.0	90.0
cpuMin (%)			5	1	0.0	80.0	90.0
cpuV (%)			5	1	0.0	80.0	90.0
memory (%)			5	1	0.0	80.0	90.0
networkReceive (kB/sec)			5	1	0.0	60000.0	80000.0
networkTotal (kB/sec)			5	1	0.0	120000.0	160000.0
networkTransmit (kB/sec)			5	1	0.0	60000.0	80000.0
storageRead (kB/sec)			5	1	0.0	7000.0	10000.0
storageTotal (kB/sec)			5	1	0.0	14000.0	20000.0
storageWrite (kB/sec)			5	1	0.0	7000.0	10000.0

図 7: 負荷 3

パラメータ		対象サーバ					
パラメータ	△	しきい値 間隔	測定 間隔	警告しきい値 (下限)	警告しきい値 (上限)	異常しきい値 (上限)	▽
capacityReserved (%)			5	1	0.0	80.0	90.0
cpuAll (%)			5	1	10.0	80.0	90.0
cpuH (%)			5	1	10.0	80.0	90.0
cpuMax (%)			5	1	0.0	80.0	90.0
cpuMin (%)			5	1	0.0	80.0	90.0
cpuV (%)			5	1	10.0	80.0	90.0
memory (%)			5	1	0.0	80.0	90.0
networkReceive (kB/sec)			5	1	0.0	60000.0	80000.0
networkTotal (kB/sec)			5	1	0.0	120000.0	160000.0
networkTransmit (kB/sec)			5	1	0.0	60000.0	80000.0
storageRead (kB/sec)			5	1	0.0	7000.0	10000.0
storageTotal (kB/sec)			5	1	0.0	14000.0	20000.0
storageWrite (kB/sec)			5	1	0.0	7000.0	10000.0

図 8: 電力消費 3

## 1.2 要件

スレッシュホールドマネージャを使用して管理用サーバからサーバを監視するには、以下の要件を満たす必要があります。


- ServerView Operations Manager V 5.0 を管理用サーバにインストールする必要があります。
- ServerView エージェント V 4.90 以降を管理対象サーバにインストールする必要があります。
- 管理対象サーバの有効なユーザ ID を、ServerView Operations Manager のユーザ/パスワード一覧に登録する必要があります。詳細については、ServerView Operations Manager のユーザガイドを参照してください。

ServerView エージェントの再起動後(新規インストール後の再起動後など)、しきい値のステータスが報告されるまでに 5~10分かかる場合があります。

VMware ESX システムに新規にスレッシュホールドマネージャを使用する場合は、VMware ESX システムのアカウント情報をServerView エージェント内のESXシステムのアカウント情報に設定する必要があります。以下の手順に従い設定してください。

- システムユーザを作成します。  
ここでの例では、このユーザを「sv\_agent」と呼びます。
- VMware AP への読み取り専用アクセス権限をこのユーザに追加します。
- ユーザを `app.config.xml` ファイルに追加します。


## システムユーザの作成

 VMware ESX ホストで作成してください。

1. ユーザ追加コマンドを使用してユーザを作成します。

セキュリティを拡張するために、このユーザはシステムにログインできず、どの Linux グループのメンバーでもありません。

```
[root@esx4 ~]# cat /etc/group | grep sv
sv_agent:x:500:sv_agent
[root@esx4 ~]# cat /etc/group | grep users
users:x:100:
[root@esx4 ~]# cat /etc/passwd | grep sv
sv_agent:x:500:500:~/home/sv_agent:/sbin/nologin
passwd sv_agent
```

 ユーザのパスワードは、VMware ESX からアクセスできる必要があります。

VMware ESX の要件を満たすパスワードを入力します。

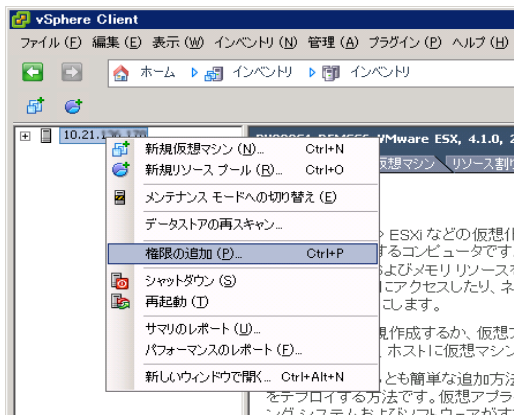
有効なパスワードは 7 文字以上で構成します。

有効なパスワードは、以下の条件のうち 3 つを満たす必要があります。

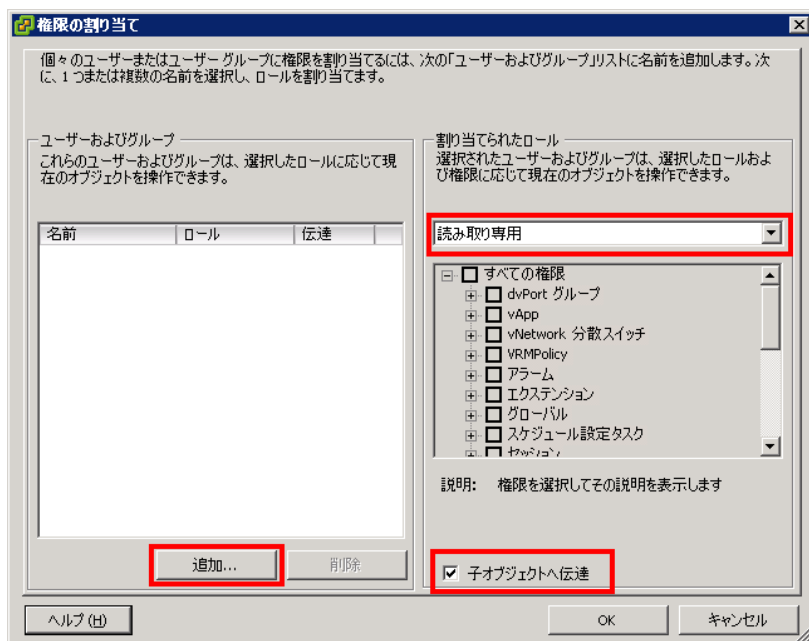
- 少なくとも 1 つ大文字を含む( 英語の A ~ Z)
- 少なくとも 1 つ小文字を含む( 英語の a ~ z)
- 少なくとも 1 つ 10 進数字を含む( 0 ~ 9)
- 少なくとも 1 つアルファベット以外の文字を含む('!', '\$', '#', '%' など)

VMware AP への読み取り専用アクセス権限をユーザに追加します。

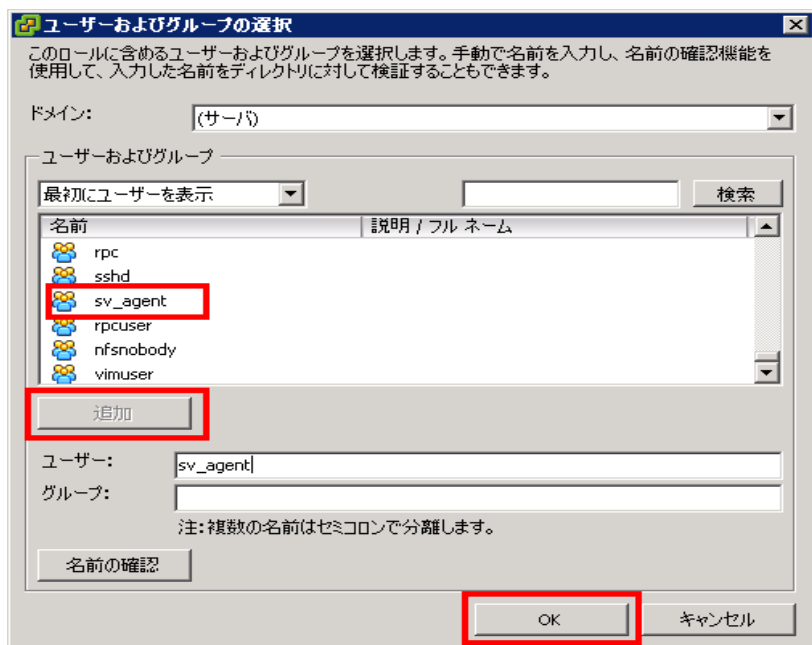
2. 管理者権限を使用して vSphere にログインします。
3. 「表示」-「インベントリ」の順にクリックします。  
ツリービューにユーザの仮想ホストがあることを確認します。



4. ホストを右クリックしてドロップダウンメニューから「**権限の追加**」を選択します。



5. 「割り当てられたロール」セクションの選択リストから「読み取り専用」を選択します。
6. 「割り当てられたロール」セクションで「子オブジェクトへ伝達」オプションを選択します。
7. 「ユーザーおよびグループ」セクションで「追加...」をクリックします。  
「ユーザーの選択」ダイアログが表示されます。



- 「ユーザーおよびグループ」セクションでユーザ名 **sv\_agent** を選択します。
- 「追加」をクリックします。  
選択したユーザ名が「ユーザー」フィールドに表示されます。
- 「OK」をクリックします。

「インベントリ」ビューの「権限」タブを表示すると、追加したユーザのアクセス権限を確認できます。

これで、このユーザ名とパスワードをrootではなく **app.config.xml** ファイルに書き込むことができます。



## ユーザの app.config.xml ファイルへの追加

11. /etc/srvmagt/VME/etc/app.config.xml ファイルを編集します。
12. <authentication> というタイトルのセクションを探します。
13. ユーザおよびパスワード情報を入力します。  
例 : <User>sv\_agent</User><Password>pw4SVagent</Password>
14. ファイルを保存します。
15. ServerView エージェントを再起動します。



ServerView Operations Managerのユーザ／パスワード一覧に、有効なユーザ ID が記載されている場合にのみ、定義されたしきい値を変更することができます。これは app.config.xml ファイルのアクセス権限だけでなく、監視対象サーバの任意のユーザ ID であることもあります。

新規のスレッシュホールドマネージャのため、古い形式によって構成されたしきい値の設定または削除が行えなくなります。そのため、古いしきい値の設定を削除するには、次のいずれかの方法を推奨します。

- ServerView Operations Manager V 4.90以降 をアップデートする前にしきい値の監視を無効にする。  
または
- ServerView エージェント V 4.90 以降をアンインストール/再インストールする。

ServerView Operations Manager および ServerView エージェントのインストールの詳細は、このマニュアルの範囲外となります。これらのインストールの詳細については、別途 ServerView のインストールマニュアルを参照してください。



## 1.3 ServerView Suite のマニュアル

ServerView Suite のマニュアルは、各サーバシステムに付属する ServerView Suite DVD 2 に収録されています。

また、マニュアルはインターネット経由で無償でダウンロードすることもできます。オンラインマニュアルは、[manuals.ts.fujitsu.com](http://manuals.ts.fujitsu.com) の「Industry standard servers」のリンク先にあります。

## 1.4 表記規則

この マニュアルでは以下の表記規則を使用します：

表記	説明
	データの損失やデバイスの損傷の可能性のあるリスクを表示します。
	追加関連情報とヒントを表示します。
<b>ボールド</b>	インターフェイス要素の名前を示します。
等幅	パスおよびファイル名など、出力やシステム要素を示します。
等幅 <b>セミボールド</b>	キーボードを使用して入力するテキストを示します。
<a href="#">青字の文字列</a>	関連するトピックへのリンクを示します。
<a href="#">ピンク字の文字列</a>	既に表示したリンクを示します。
<abc>	実際の値と置き換える必要がある変数を示します。
[abc]	オプション(構文)を示します。
[key]	キーボード上のキーを示します。大文字のテキストを入力する場合、[Shift] キーを指定します。たとえば、A を入力する場合 [SHIFT] + [A] を押します。2 つのキーを同時に押す場合は、2 つのキーをプラス記号で連結して示します。

## スクリーンショット

スクリーンショットには、システムによって異なるものがあります。従って、詳細がお使いのシステムと異なる場合があります。メニューオプションやコマンドに関しても、システム特有の相違があることがあります。



## 2 スレッシュホールドマネージャのメインウィンドウ

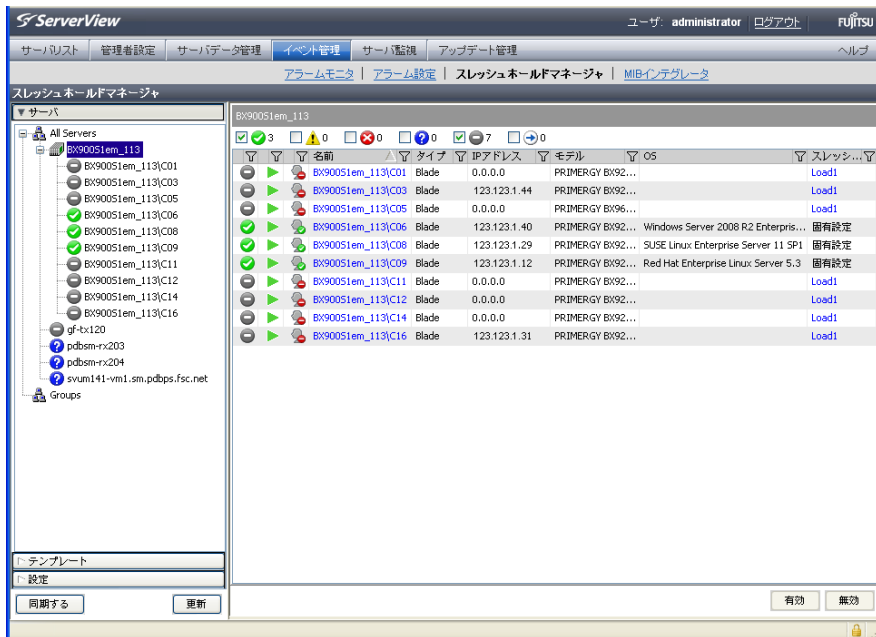



図 9: スレッシュホールドマネージャのメインウィンドウ

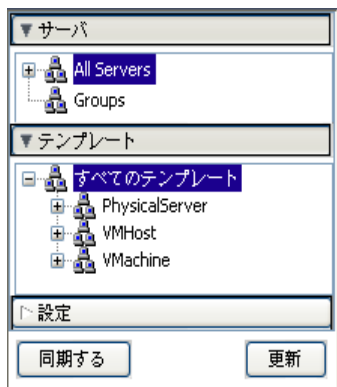
メインウィンドウには以下の要素が含まれています(上から下の順)。

- ServerView Suite ヘッダー
- ServerView Suite メニューバー
- ワークエリア。左側にナビゲーションバー、右側にワークエリアがあります


左側のナビゲーションエリアはツリー構造になっています。ここで選択した項目によって、右側のワークエリアに表示される内容は異なります。

 「設定」をクリックした場合、左側のナビゲーションバーにツリー構造はありません。

## 2.1 ツリー構造



スレッシュホールドマネージャのツリー構造では、サーバや既存のテンプレートが表示されます。「サーバ」および「テンプレート」タブを使用して、ツリー構造の内容を制御できます。ツリー構造で選択する内容によって、右側のワークエリアに表示されるビューが変わります。







 「設定」をクリックした場合、左側のナビゲーションバーにツリー構造はありません。

### サーバ

「サーバ」ビューでは、ServerView サーバリストに含まれるサーバがツリー構造で表示されます。

グループ	意味
すべてのサーバ	事前定義されたサーバグループ
グループ	カスタマイズされたサーバグループ


各サーバの前に表示されるアイコンは、しきい値と監視する値が定義されているパラメータのしきい値の複合ステータスを示します( [11 ページのパラメータに定義できる値](#)を参照)。

アイコン	意味
	OK :平均値が「警告しきい値(下限)」と「警告しきい値(上限)」の間。
	警告 :平均値が0と「警告しきい値(下限)」の間、または「警告しきい値(上限)」と「異常しきい値(上限)」の間。
	異常 :平均値が「異常しきい値(上限)」以上。
	不明:パラメータ値がエージェントに提供されていません。
	実行中 :しきい値の準備中です。
	使用不可 :エージェントへ未接続接続状態です。

## テンプレート

「テンプレート」ビューでは、ツリー構造で既存のテンプレートが表示されます。「すべてのテンプレート」グループと、その下にある以下の3つのサブグループが表示されます。

グループ	意味
すべてのテンプレート	<p>事前に定義されたテンプレートグループ。配下に以下の3つのテンプレートグループが含まれます。</p> <p><b>PhysicalServer</b> サーバのテンプレート</p> <p><b>VMHost</b> ホストシステムのテンプレート</p> <p><b>VMachine</b> 仮想マシンのテンプレート</p>

テンプレートは以下のアイコンで示されます：

### 設定

この画面に表示される内容を使用してスレッシュホールドマネージャの一般設定を行います(47 ページの「[設定](#)」タブを参照)。



「[設定](#)」をクリックした場合、左側のナビゲーションバーにツリー構造はありません。

### 同期する

このボタンを使用してしきい値の設定を同期します。

さまざまな理由により、しきい値設定の変更がエージェント側に適用されていない場合、「[同期する](#)」を選択して明示的にしきい値の設定を同期する必要があります。

### 更新

このボタンを使用して表示を更新します。

システムの稼動中にServerView サーバリストを変更する場合、「[更新](#)」を選択して明示的に「[サーバ](#)」ビューを更新する必要があります。



## 2.2 サーバリスト

サーバリストには、「サーバ」ビューのツリー構造で選択したすべてのサーバが表示されます。事前定義された「すべてのサーバ」グループを選択している場合、サーバリストにはそのグループに含まれるすべてのサーバが表示されます。

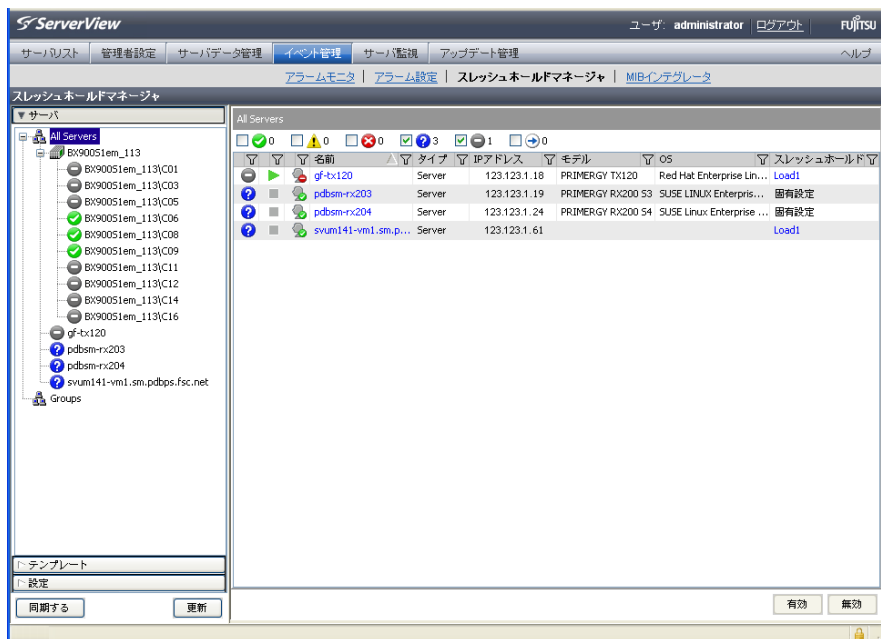













図 10: サーバリスト

サーバリストの上の行には、サーバの数およびそのステータスに関する情報が表示されます。必要なステータスアイコンを選択すると、この行を使用してサーバリストの表示形式を制御できます。デフォルトではすべてのステータスアイコンが選択されています。

テーブル内の列について、以下に説明します。

列	意味
1つ目のアイコン	<p>しきい値のステータス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li> OK: 平均値が「警告しきい値(下限)」と「警告しきい値(上限)」の間。</li> <li> 警告: 平均値が0と「警告しきい値(下限)」の間、または「警告しきい値(上限)」と「異常しきい値(上限)」の間。</li> <li> 異常: 平均値が「異常しきい値(上限)」以上。</li> <li> 不明: パラメータ値がエージェントに提供されていない。</li> <li> 実行中: しきい値の準備中です。</li> <li> 使用不可: エージェントへ未接続状態です。</li> </ul>
2つ目のアイコン	<p>サーバのしきい値監視ステータス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li> しきい値監視が有効。</li> <li> しきい値監視が無効。</li> </ul>
3つ目のアイコン	<p>サーバのアクセス権限ステータス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li> サーバへの設定変更は有効なユーザIDに基づいて確立されました。</li> <li> ServerView Operations Manager のユーザ/パスワードリストにサーバに有効なユーザ ID が存在しないため、最後の設定変更は失敗した。  「同期する」をクリックして再試行してください。</li> </ul>
名前	サーバの名前。サーバ名をクリックすると、右側のワークエリアに関連するサーバビューに切り替えることができます。
タイプ	サーバタイプ :Server、VMHost、Blade

列	意味
IP アドレス	サーバの IP アドレス
モデル	サーバのモデル名
OS	インストールされているオペレーティングシステム
スレッシュホールド	このサーバに割り当てられているしきい値セットまたはテンプレートの名前。名前をクリックすると、しきい値セットまたはテンプレートのビューに切り替えることができます。

 「<列>のフィルタ」ダイアログボックスが開き、テーブルに表示する行を指定できます。

### 有効

選択したサーバについてしきい値監視を有効にします。このボタンは、1 つまたは複数のサーバを選択できます。しきい値セットまたはテンプレートが割り当てられているサーバにのみ有効です。

### 無効

選択したサーバについてしきい値監視を無効にします。このボタンは、しきい値監視が有効なサーバを選択した場合にのみ有効です。

## 2.3 サーバビュー

特定のサーバのビューを表示するには、「サーバ」ビューのツリー構造でサーバ、VM ホストまたは仮想マシンを選択するか、サーバリストのオブジェクト名をクリックします。

個々のテンプレートのビューで、新しいテンプレートを作成したり、既存のテンプレートを変更することができます。

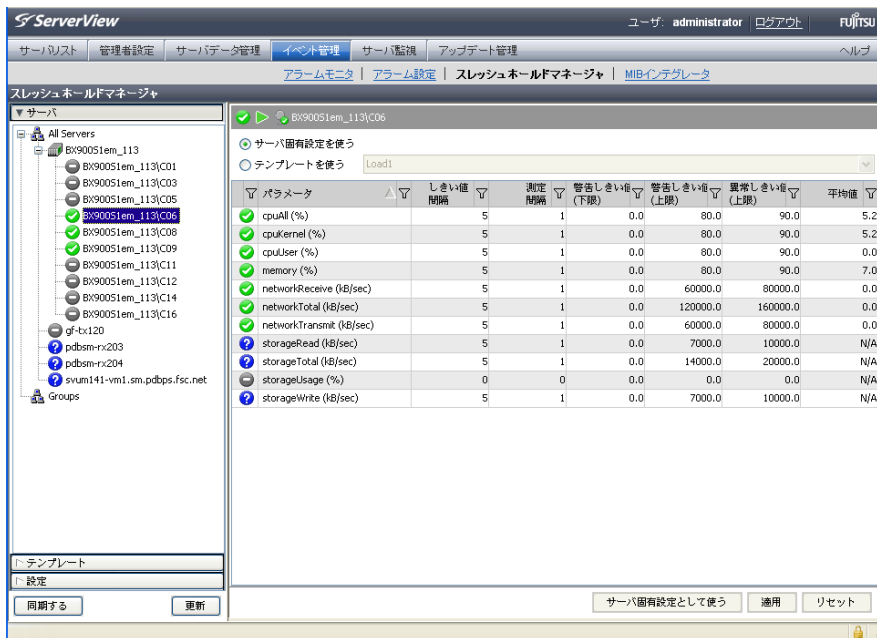


図 11: サーバビュー

個々のオブジェクトのビュー(サーバ、仮想化ホストまたは仮想マシン)は以下の3つの領域に分かれています。

- **ヘッダー**：スレッシュホールドマネージャのサーバリストから提供されるステータスアイコンとオブジェクト名が表示されます。
- **選択領域**：サーバ固有の定義またはテンプレートベースの定義の、いずれかの定義タイプを選択します。
- **テーブル**：スレッシュホールドマネージャを使用して監視可能なオブジェクトパラメータが表示されます。

### サーバ固有設定を使う

サーバ固有のしきい値セットの定義です。


### テンプレートを使う

既存のテンプレートに基づいたしきい値セットの定義です。選択リストには、現在のオブジェクトの種類に定義されたすべてのテンプレートが表示されます。サーバテンプレートを選択し、変更せずに使用することも、カスタマイズして使用することもできます。後者の場合、目的のテンプレートを選択してから「**サーバ固有設定として使う**」をクリックします。

テーブル内の列について、以下で説明します。

列	意味
アイコン	パラメータ固有のしきい値のステータス。
パラメータ	しきい値と監視する値を定義するパラメータ。パラメータリストはテンプレートを指定するサーバタイプによって異なります。
しきい値間隔	しきい値間隔には時間(分単位)を指定します。この時間内のしきい値の平均値が上限または下限を外れるかによって、システムは該当するメッセージ(正常、警告、異常のいずれか)を発行します。
測定間隔	測定間隔には、各測定間の時間間隔(分単位)を指定します。システムがメッセージを発行する前に、しきい値間隔内で複数の測定が行われるように、測定間隔は必ずしきい値間隔よりも短く設定します。
警告しきい値(下限)	警告が報告される下限しきい値
警告しきい値(上限)	警告が報告される上限しきい値 1

列	意味
異常しきい値(上限)	異常警告が報告される上限しきい値 2
平均値	最後の測定間隔の平均値

 「<列>のフィルタ」ダイアログボックスが開き、テーブルに表示する行を指定できます。

### サーバ固有設定として使う

このボタンを使用して、既存のしきい値セットに基づいた独自のサーバ固有のしきい値セットを作成します。

### 適用

このボタンを使用して変更を確定します。

### リセット

このボタンを使用してすべての入力または変更を取り消します。

サーバビューを表示した後、または最後に「適用」をクリックしてから行った、すべての入力と変更がリセットされます。

## 2.4 テンプレートリスト

テンプレートリストには、ツリー構造で選択されたグループに属するテンプレートがすべて含まれます。「すべてのテンプレート」グループを選択した場合、定義済みのテンプレートがテンプレートリストにすべて表示されます。

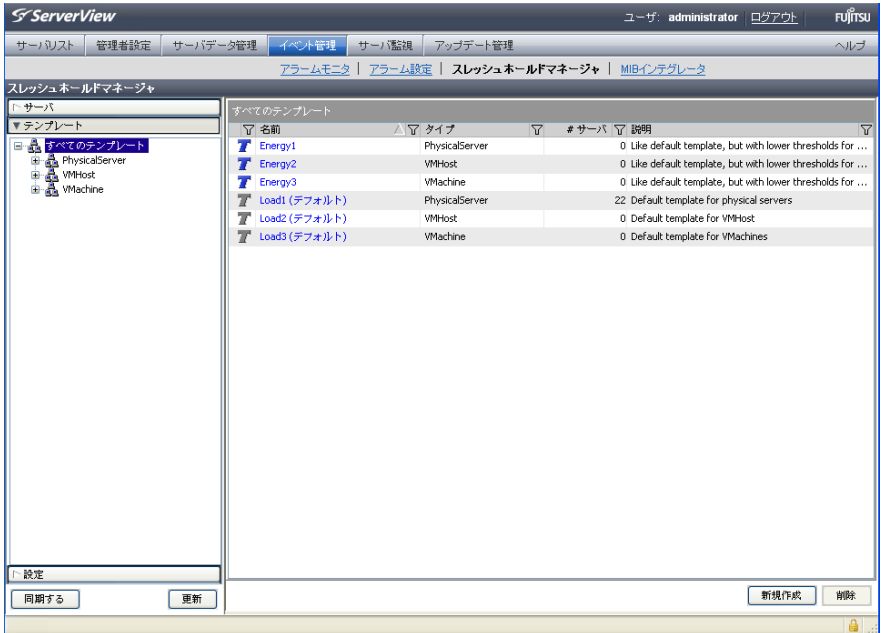



図 12: テンプレートリスト

テーブル内の列について、以下で説明します。

列	意味
アイコン	テンプレートアイコン
名前	テンプレート名
タイプ	ツリー構造で選択したオブジェクトの種類:  <b>PhysicalServer</b> 物理サーバ  <b>VMHost</b> VM ホスト  <b>VMachine</b> 仮想マシン
#サーバ	テンプレートを割り当てているサーバの数
説明	テンプレートの簡単な説明

 「<列>のフィルタ」ダイアログボックスが開き、テーブルに表示する行を指定できます。

### 新規作成

新しいテンプレートを作成するダイアログボックスが開きます。

### 削除

選択したテンプレートを削除します。



## 2.5 テンプレートビュー

テンプレートを開くには、左側のナビゲーションバーのツリー構造でテンプレートをクリックするか、右側のワークエリアのテンプレートリストでテンプレートの名前をクリックします。

「新規作成」をクリックすると新しいテンプレートを作成できます。

The screenshot shows the 'ServerView' Threshold Manager interface. The left sidebar shows a tree view with 'Load2 (デフォルト)' selected. The main area displays the configuration for the 'Load2' template, including a table of parameters and their thresholds.

パラメータ	しきい値 期間	測定 期間	警告しきい値 (下限)	警告しきい値 (上限)	異常しきい値 (上限)
capacityReserved (%)	5	1	0.0	80.0	90.0
cpuAll (%)	5	1	0.0	80.0	90.0
cpuKernel (%)	5	1	0.0	80.0	90.0
cpuPfin (%)	5	1	0.0	80.0	90.0
cpuUser (%)	5	1	0.0	80.0	90.0
cpuVM (%)	5	1	0.0	80.0	90.0
memory (%)	5	1	0.0	80.0	90.0
memoryVM (%)	5	1	0.0	80.0	90.0
networkReceive (kB/sec)	5	1	0.0	60000.0	80000.0
networkTotal (kB/sec)	5	1	0.0	120000.0	160000.0
networkTransmit (kB/sec)	5	1	0.0	60000.0	80000.0
storageRead (kB/sec)	5	1	0.0	7000.0	10000.0
storageTotal (kB/sec)	5	1	0.0	14000.0	20000.0
storageWrite (kB/sec)	5	1	0.0	7000.0	10000.0

図 13: テンプレートビュー

個々のテンプレートのビューは以下の 3 つの領域に分かれています。

- ヘッダー。既存のテンプレートを選択している場合、テンプレートの名前が表示されます。
- セクション。テンプレートの一般情報が表示されます。
- テンプレートのしきい値を定義する「パラメータ」タブと、このテンプレートを有効にするサーバを選択する「対象サーバ」タブ。

### 名前

テンプレートの名前(すべての文字を使用できます。最大文字数は256です)。

### タイプ

どのサーバタイプのテンプレートであるか、またはどのサーバタイプにテンプレートを定義するかが表示されます。

#### PhysicalServer

物理サーバ

#### VMHost

VM ホスト

#### VMachine

仮想マシン

「タイプ」は、「新規作成」を選択してページを開いた場合のみ有効です。

### 説明

テンプレートの簡単な説明(任意。すべての文字を使用できます。最大文字数は256です)。簡単な説明はテンプレートリストに表示されます。

### パラメータ

パラメータを含むテーブルでは、定義やしきい値の変更ができます(43 ページの [パラメータ\(タブ\)](#) を参照)。

### 対象サーバ

テンプレートを有効にする個々のサーバまたはサーバグループを選択します(45 ページの [対象サーバ\(タブ\)](#) を参照)。

### テンプレートをコピーする

このボタンを使用して、現在のプロパティを使用して新しいテンプレートを作成します。テンプレートを保存するには、「適用」をクリックします。

### 適用

このボタンを使用して変更を適用します。

## リセット

このボタンを使用してすべての入力または変更を元に戻します。

テンプレートビューを呼び出した後、または「適用」を最後にクリックしてから行った、すべての入力と変更がリセットされます。

### 2.5.1 パラメータ(タブ)

「パラメータ」タブには、サーバパラメータに定義されたしきい値の表示および、定義、または変更を行うことができます。

「パラメータ」タブは、個々のテンプレートのビューに表示されます(41 ページのテンプレートビューを参照)。

The screenshot shows the 'ServerView' application window. The 'スレッシュホールドマネージャ' (Threshold Manager) section is active, displaying the 'Load2' template. The 'パラメータ' (Parameters) tab is selected, showing a table of parameters with their respective thresholds and limits.

パラメータ	しきい値 閾値	測定 間隔	警告しきい値 (下限)	警告しきい値 (上限)	異常しきい値 (上限)
capacityReserved (%)	5	1	0.0	80.0	90.0
cpuAll (%)	5	1	0.0	80.0	90.0
cpuKernel (%)	5	1	0.0	80.0	90.0
cpuMin (%)	5	1	0.0	80.0	90.0
cpuUser (%)	5	1	0.0	80.0	90.0
cpuVM (%)	5	1	0.0	80.0	90.0
memory (%)	5	1	0.0	80.0	90.0
memoryVM (%)	5	1	0.0	80.0	90.0
networkReceive (kB/sec)	5	1	0.0	60000.0	80000.0
networkTotal (kB/sec)	5	1	0.0	120000.0	160000.0
networkTransmit (kB/sec)	5	1	0.0	60000.0	80000.0
storageRead (kB/sec)	5	1	0.0	7000.0	10000.0
storageTotal (kB/sec)	5	1	0.0	14000.0	20000.0
storageWrite (kB/sec)	5	1	0.0	7000.0	10000.0

図 14: パラメータ(タブ)

テーブルには以下の列があります。

列	意味
パラメータ	しきい値と監視する値を定義するパラメータ。パラメータリストはサーバタイプによって異なります。 パラメータについては、7 ページの <a href="#">監視されるパラメータ</a> で説明します。
しきい値間隔	しきい値間隔では、時間(分)を指定して、その時間内で値がしきい値を超える、または下回る場合の平均をとります。これにより、システムは対応するメッセージを発行することができます(正常、警告また異常)。
測定間隔	測定間隔では、各測定間の時間間隔(分)を指定します。測定間隔には、しきい値間隔よりも短い値を指定する必要があります。そうすることで、システムがメッセージを発行する前に、しきい値間隔内で測定を数回行うことができます。
警告しきい値(下限)	警告が報告される下限しきい値
警告しきい値(上限)	警告が報告される上限しきい値 1
異常しきい値(上限)	異常警告が報告される上限しきい値 2



「<列>のフィルタ」ダイアログボックスが開き、テーブルに表示する行を指定できます。

## 2.5.2 対象サーバ(タブ)

「対象サーバ」タブで、テンプレートを有効にする個々のサーバまたはサーバグループを選択します。

「対象サーバ」タブは、個々のテンプレートのビューに表示されます(41 ページのテンプレートビューを参照)。

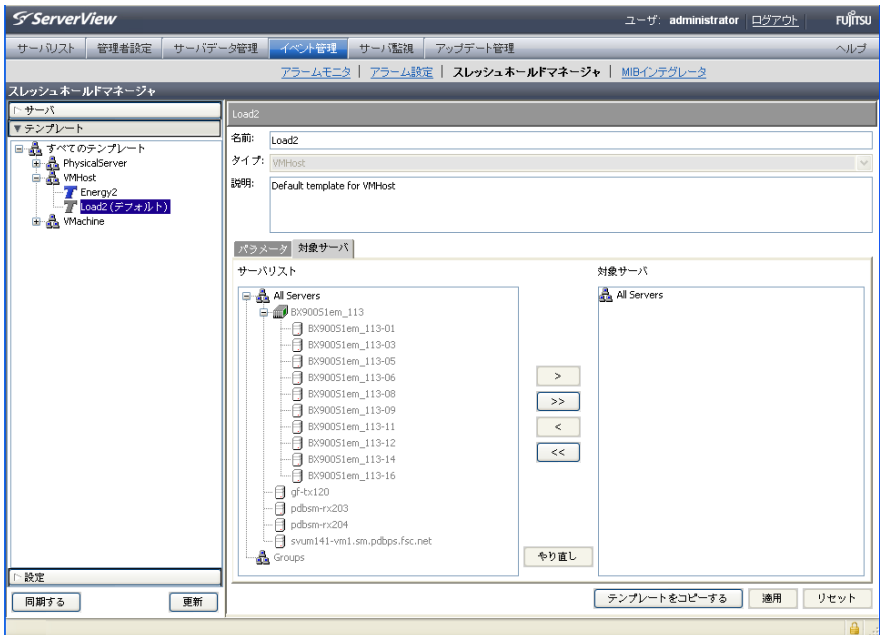


図 15: 「対象サーバ」タブ

### サーバリスト

テンプレートを割り当てることのできるサーバおよびサーバグループのリストです。

### 対象サーバ

テンプレートを割り当てる、選択したサーバまたはサーバグループのリストです。「適用」を選択すると、しきい値セットがこのリストのすべてのサーバに保存されます。

>

選択したサーバを「**対象サーバ**」リストに移動します。このボタンは、「**サーバリスト**」で該当するサーバタイプのサーバを選択した場合にのみ有効です。

>>

すべてのサーバを「**対象サーバ**」リストに移動します。

サーバグループを選択している場合に、該当するサーバタイプの別のサーバをこのサーバグループの ServerView サーバリストに追加すると、サーバの数が自動的に増加されます。

<

選択したサーバを「**対象サーバ**」リストから削除します。このボタンは、「**対象サーバ**」でサーバを選択した場合のみ有効です。

<<

すべてのサーバを「**対象サーバ**」リストから削除します。

### やり直し

「**対象サーバ**」タブで行ったすべての入力または変更を元に戻します。

## 2.6 「設定」タブ

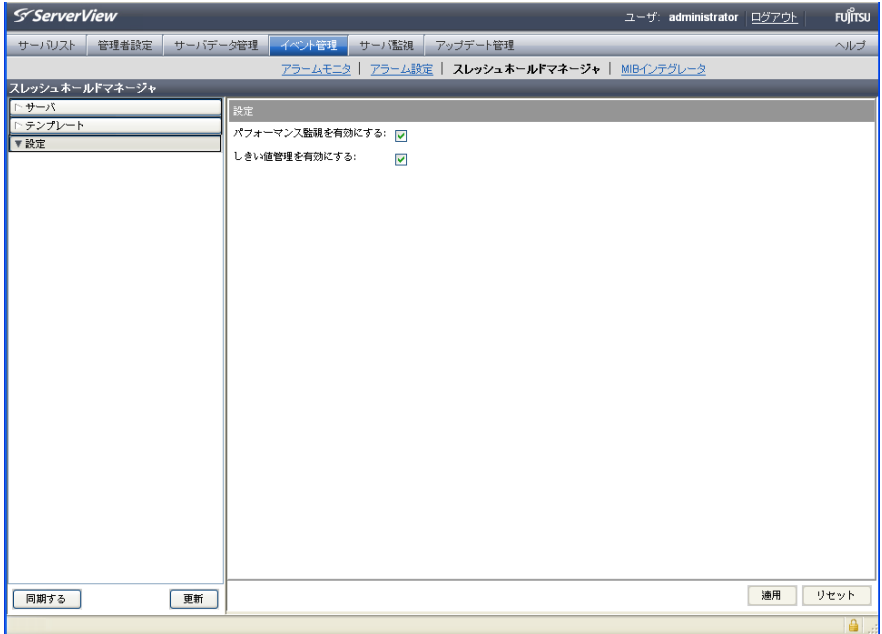


図 16: 「設定」ビュー

「設定」タブで、パフォーマンス監視としきい値管理の有効/無効を切り替えます。

「設定」タブを開くには、左側のナビゲーションバーで「設定」をクリックします。

 「しきい値管理を有効にする」オプションが無効な場合、「サーバ」タブと「テンプレート」タブはロックされて無効です。

### パフォーマンス監視を有効にする

パフォーマンス監視の有効/無効を切り替えることができます。

パフォーマンス監視を無効にすると、パフォーマンスデータが管理対象サーバから収集されなくなります。その結果、ServerView Operations Manager の単一のサーバビューで、履歴チャートのパフォーマンス履歴が参照できません。

### しきい値管理を有効にする

しきい値管理の有効/無効を切り替えることができます。

しきい値管理を無効にすると、しきい値データが管理対象サーバから収集されなくなります。左側のナビゲーションバーの「サーバ」タブと「テンプレート」タブは無効です。

### 適用

このボタンを使用して変更を確定します。

### リセット


このボタンを使用してすべての入力または変更を元に戻します。



## 2.7 「フィルタ」ダイアログボックス

「<列名>列のフィルタ」ダイアログボックスのタブを使用して、テーブルに表示するテーブルエントリを指定できます。テーブルにはデフォルトですべての行が表示されます。テーブルは、列および以下の基準でフィルタできます。

- 1つまたは複数の値(「標準」タブ)
- 値範囲。複数の値を指定できます(「カスタマイズ」タブ)

ダイアログボックスを開くには、テーブルヘッダーのフィルタアイコン  をクリックします。フィルタを実行できる各列に対してフィルタアイコンが表示されます。

### 2.7.1 標準(フィルタダイアログボックス)

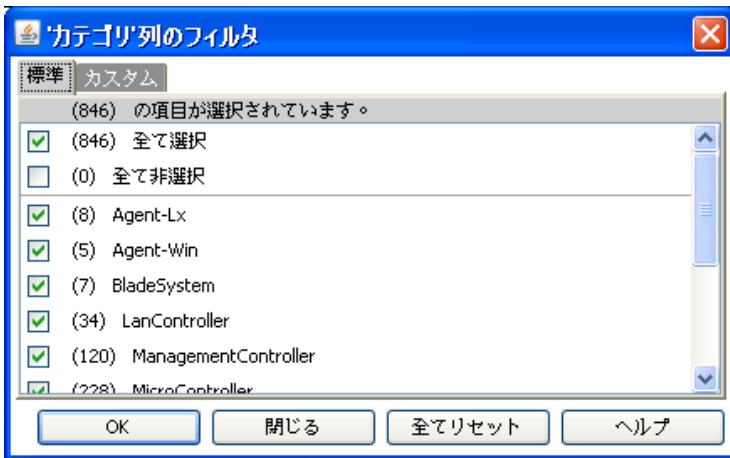


図 17: フィルタダイアログボックスの「標準」タブ

「標準」タブでは、すべての値と選択した列での発生頻度を表示します。

- |       |                         |
|-------|-------------------------|
| 全て選択  | 表示するすべてのテーブル行を選択します     |
| 全て非選択 | すべてのテーブル行を選択解除します       |
| <値>   | 選択した値を持つすべてのテーブル行を表示します |

## 2.7.2 文字列(フィルタダイアログボックス)

「カスタマイズ」タブに、文字列を入力できます。この文字列と一致する対応するテーブル行が、選択した列の各値に表示されます。

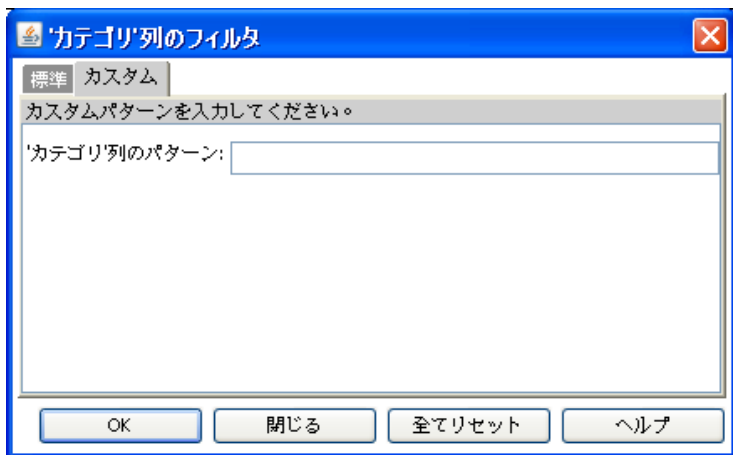


図 18: フィルタダイアログボックスの文字列タブ

### <列名> 列のパターン

文字列はフィルタ条件として機能します。文字列には任意の英数字と、以下のプレースホルダを使用できます。

- ? 1 文字を表します
- \* 任意の数の文字を表します
- ¥ 文字\*と?を使用してフィルタリングできるワイルドカード文字です

例:

¥\* は、フィルタリングされた列にアスタリスクを 1 文字含むすべての行を示します。

フィルタ条件として、任意の文字数を入力できます。正規表現によるフィルタリングは実行できません。

### 2.7.3 整数 (Filter Dialog Box)

**Customize** タブに指定する数字の範囲を入力できます。選択されたカラム範囲と一致するテーブルを表示します。

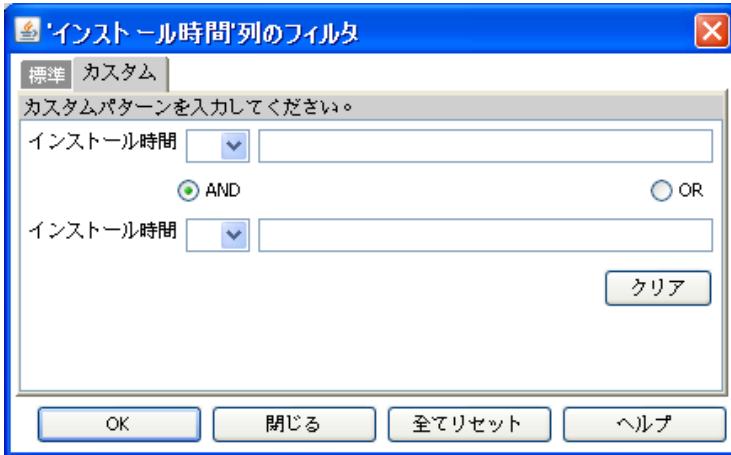


図 19: Filter Dialog Boxの整数のタブ

#### <列>

論理演算子と入力フィールドで、最初の整数を記載します。

#### AND または OR の動作

**AND**            両方の条件を満たす必要があります

**OR**             どれか1つ条件を満たす必要があります

#### <列>

論理演算子と入力フィールドで、最後の整数を記載します。



---

## 3 スレッシュホールドマネージャの使用

スレッシュホールドマネージャを使用してサーバのパフォーマンス値を監視するには、管理用サーバでサーバにしきい値セットを定義する必要があります。以下のサーバタイプにしきい値セットを定義できます。

- 物理サーバ
- VMホスト
- 仮想マシンまたはゲストシステム

特定のサーバにしきい値セットを定義するか、テンプレートを使用してしきい値セットをサーバに割り当てることができます。しきい値セットを標準しきい値セットとして割り当てすることもできます。このセットは、定義や割り当てを追加して行わない限り、同じタイプの各サーバに自動的に割り当てられます。

しきい値セットは監視対象サーバに保存されます。ServerView エージェントはこの定義を使用してサーバのパフォーマンスパラメータを監視し、該当するイベントが発生すると管理用サーバにイベントを報告します。

### 3.1 スレッシュホールドマネージャを開く

スレッシュホールドマネージャを ServerView Operations Manager で開く方法は 2 つあります。

- ServerView Operations Manager の開始ページで、「イベント管理」の「スレッシュホールドマネージャ」を選択します。
- ServerView メニューバーで、「イベント管理」の「スレッシュホールドマネージャ」を選択します。

スレッシュホールドマネージャのメインウィンドウが開きます。

### 3.2 スレッシュホールドマネージャを閉じる

メインウィンドウを閉じると、スレッシュホールドマネージャが終了します。

- スレッシュホールドマネージャのメインウィンドウを閉じるには、ブラウザウィンドウの「閉じる」アイコンをクリックします。

### 3.3 しきい値管理の無効化/有効化

1. 左側のナビゲーションバーで「設定」タブに切り替えます。
2. しきい値管理を有効にするには、「しきい値管理を有効にする」オプションを選択します。

しきい値管理を無効にするには、「しきい値管理を有効にする」オプションの選択を解除します。


3. 「適用」をクリックして変更を確定します。



「しきい値管理を有効にする」オプションが無効な場合、しきい値データが管理対象サーバから収集されなくなり、「サーバ」タブと「テンプレート」タブはロックされて無効となります。

## 3.4 パフォーマンス監視の無効化/有効化

### 3.4.1 個々のサーバのパフォーマンス監視の無効化/有効化


 パフォーマンス監視を変更するには、しきい値管理を有効にする必要があります(54 ページのしきい値管理の無効化/有効化を参照)。

1. 左側のナビゲーションバーで「サーバ」ビューに切り替えます。
2. ツリー構造で「すべてのサーバ」を選択します。
3. 右側のワークエリアで、変更するサーバを選択します。
4. 選択したサーバについてしきい値監視を無効にするには、「無効」をクリックします。

選択したサーバについてしきい値監視を有効にするには、「有効」をクリックします。

### 3.4.2 すべてのサーバのパフォーマンス監視の無効化/有効化

1. 左側のナビゲーションバーで「設定」タブに切り替えます。
2. すべての管理対象サーバについてしきい値監視を有効にするには、「パフォーマンス監視を有効にする」オプションを選択します。  
すべての管理対象サーバについてしきい値監視を無効にするには、「パフォーマンス監視を有効にする」オプションの選択を解除します。
3. 「適用」をクリックして変更を確定します。

 パフォーマンス監視を無効にすると、パフォーマンスデータが管理対象サーバから収集されなくなります。その結果、ServerView OperationsManager のシングルシステムビューで、パフォーマンスの履歴が参照できません。

## 3.5 サーバ固有のしきい値セットの作成

サーバにサーバ固有のしきい値セットを定義し、その定義を使用して対象のサーバに関連付けられているパフォーマンスパラメータを監視できます。

以下の2通りの方法でサーバ固有のしきい値セットを定義できます。

- サーバに新しいサーバ固有のしきい値セットを定義できます。
- 既存のテンプレートに基づくサーバ固有のしきい値セットを定義します。

### 3.5.1 新しいしきい値セットの定義

1つのサーバに特定のしきい値セットを定義できます。

1. 左側のナビゲーションバーで「**サーバ**」ビューに切り替えます。
2. ツリー構造で、サーバ固有のしきい値セットを作成するサーバを選択します。  
選択したサーバのビューが右側のワークエリアに表示されます。
3. 「**サーバ固有設定を使う**」を選択して、サーバに新しいしきい値セットを定義します。
4. テーブルに、監視するパラメータの値を入力します。各フィールドに個別に必要な値を入力します。
5. この場合、対応するフィールドをクリックして [F2] ボタンを押すか、フィールドをダブルクリックしてエントリを有効にします。
6. 該当する値を変更します。
7. 5と6を繰り返して必要な値をすべて設定します。
8. 変更を元に戻すには、「**リセット**」をクリックします。
9. 「**適用**」を選択して行った変更を保存します。  
しきい値セットがサーバに保存されて有効になります。



### 3.5.2 テンプレートに基づくしきい値セットの定義

関連するサーバのタイプに対してすでに作成されているテンプレートを変更し、その変更をサーバに保存することにより、サーバ固有のしきい値セットを定義できます。

1. 左側のナビゲーションバーで「サーバ」ビューに切り替えます。
2. ツリー構造で、サーバ固有のしきい値セットを作成するサーバを選択します。選択したサーバのビューが右側のワークエリアに表示されます。
3. 「**テンプレートを使う**」をクリックします。
4. サーバ固有のしきい値セットを定義するときに使用するテンプレートを選択します。
5. 「**サーバ固有設定として使う**」をクリックします。
6. テーブルに、監視するパラメータの値を入力します。各フィールドに個別に必要な値を入力します。
7. この場合、対応するフィールドをクリックして [F2] ボタンを押すか、フィールドをダブルクリックしてエントリを有効にします。
8. 該当する値を変更します。
9. 7 と 8 を繰り返して必要な値をすべて設定します。
10. 変更を元に戻すには、「**リセット**」をクリックします。
11. 「**適用**」を選択して行った変更を保存します。しきい値セットがサーバに保存されて有効になります。

## 3.6 テンプレートの作成と管理

以下の手順を使用して、カスタマイズされたテンプレートの作成と管理ができます。

### 3.6.1 新しいテンプレートの定義

新しいテンプレートは以下の手順で作成できます。

- 左側のナビゲーションバーで「**テンプレート**」ビューに切り替えて、右側のワークエリアで「**新規作成**」ボタンをクリックします。
- 左側のナビゲーションバーで「**テンプレート**」ビューに切り替えて、コンテキストメニューから「**新規作成**」を選択します。



サーバ固有のしきい値セットからテンプレートを作成することもできます。この場合、「**テンプレートをコピーする**」を選択してしきい値セットを保存します。

空のフォームが右側のワークエリアに表示されます。

1. 「**名前**」に新しいテンプレートに指定する名前を入力します。
2. 「**タイプ**」でテンプレートを作成するサーバタイプを選択します。  
サーバタイプを選択すると、「**パラメータ**」タブに、しきい値を定義可能なサーバタイプ固有のパフォーマンスパラメータのリストが表示されます。
3. 「**説明**」に、必要に応じてテンプレートに関する簡単な説明を入力します。この説明はテンプレートリストに表示されます。
4. 「**パラメータ**」タブで、監視するパラメータの値を入力します。  
各フィールドに個別に必要な値を入力します。
5. この場合、対応するフィールドをクリックして [F2] ボタンを押すか、フィールドをダブルクリックしてエントリを有効にします。
6. 該当する値を変更します。
7. 5 と 6 を繰り返して必要な値をすべて設定します。

8. 「**対象サーバ**」タブで、テンプレートを有効にするサーバまたはサーバグループを指定します。この割り当ては、後で行うこともできます。
9. エントリを元に戻すには、「**リセット**」をクリックします。
10. 「**適用**」をクリックしてテンプレートを保存します。

## 3.6.2 テンプレートの変更

テンプレートを変更するには、左側のナビゲーションバーで「**テンプレート**」ビューに切り替えて、変更するテンプレートをクリックします。このテンプレートが右側のワークエリアに表示されます。

1. 「**説明**」に、必要に応じて、テンプレートに関する簡単な説明を入力するか現在のテキストを変更します。
2. 「**パラメータ**」の現在の値を、しきい値監視に必要な値に合わせて調整します。
3. この場合、対応するフィールドをクリックして [F2] ボタンを押すか、フィールドをダブルクリックしてエントリを有効にします。
4. 該当する値を変更します。
5. 3 と 4 を繰り返して必要な値をすべて変更します。
6. 変更を元に戻すには、「**リセット**」をクリックします。
7. 「**適用**」を選択して行った変更を保存します。

## 3.6.3 テンプレートの名前の変更

テンプレートの名前を変更するには、左側のナビゲーションバーで「**テンプレート**」ビューに切り替えて、名前を変更するテンプレートをクリックします。このテンプレートが右側のワークエリアに表示されます( [41 ページのテンプレートビュー](#) を参照)。

1. 「**名前**」にテンプレートに指定する新しい名前を入力します。
2. 変更を元に戻すには、「**リセット**」をクリックします。
3. 「**適用**」を選択して行った変更を保存します。  
テンプレートが新しい名前で保存されます。

### 3.6.4 テンプレートの削除

テンプレートを削除するには、以下の手順に従います。

1. 左側のナビゲーションバーで「**テンプレート**」ビューに切り替えます。  
右側のワークエリアにすべてのテンプレートが表示されます。
2. 削除するテンプレートをクリックします。
3. 複数のテンプレートを削除するには、[Ctrl] ボタンを押しながらマウスの左ボタンを押して複数のテンプレートを選択します。
4. 「**削除**」をクリックします。
5. プロンプトが表示されたら「**はい**」をクリックして、選択したテンプレートの削除を確定します。  
「**いいえ**」をクリックすると、操作がキャンセルされます。

すべてのテンプレートを削除するには、以下の手順が最も簡単です。

1. 左側のナビゲーションバーで「**テンプレート**」ビューに切り替えます。
2. 「**すべてのテンプレート**」グループを選択します。
3. コンテキストメニューから「**すべて削除**」を選択します。
4. 「**はい**」をクリックして次のプロンプトを確定します。  
すべてのテンプレートが削除されます。「**いいえ**」をクリックすると、操作がキャンセルされます。

### 3.6.5 テンプレートの割り当て

テンプレートをサーバまたはサーバグループに割り当てするには、以下の手順に従います。

1. 左側のナビゲーションバーで「**テンプレート**」ビューに切り替えます。
2. 必要なテンプレートをクリックして該当するテンプレートを選択します。
  - 左側のナビゲーションバーで、該当するサーバタイプグループの下から選択する。  
または
  - 右側のワークエリアに表示される、定義されたテンプレートリストから選択する。
1. テンプレートビューで「**対象サーバ**」タブをクリックします( [45 ページの 対象サーバ\(タブ\)](#) を参照)。
2. 「**サーバリスト**」でサーバまたはサーバグループを選択します。
3. 「>」をクリックします。  
選択したすべてのサーバ、または、サーバグループに属し、テンプレートのサーバタイプに対応するすべてのサーバが「**対象サーバ**」リストに移動されます。
4. すべてのサーバグループをリストに移動するには「>>」をクリックします。
5. 変更をリセットするには、「**やり直し**」をクリックします。
6. 「**適用**」をクリックして、テンプレートを選択したサーバまたはサーバグループに割り当てます。テンプレートに定義したしきい値セットは該当するサーバに保存されます。

### 3.6.6 テンプレートの割り当ての削除

テンプレートの割り当てを削除するには、以下の手順に従います。

1. 左側のナビゲーションバーで「**テンプレート**」ビューに切り替えます。
2. 必要なテンプレートをクリックして該当するテンプレートを選択します。
  - 左側のナビゲーションバーで、該当するサーバタイプグループの下から選択する。  
または
  - 右側のワークエリアに表示される、定義されたテンプレートリストから選択する。
3. テンプレートビューで「**対象サーバ**」タブをクリックします( [45 ページの 対象サーバ\(タブ\)](#) を参照)。
4. 「**対象サーバ**」で、割り当てを削除するサーバまたはサーバグループを選択します。
5. 「**<**」をクリックします。  
選択したすべてのサーバ、または、サーバグループに含まれ、テンプレートのサーバタイプに対応するすべてのサーバが「**対象サーバ**」リストから削除されます。
6. リストからすべてのサーバを削除するには「**<<**」をクリックします。
7. 変更をリセットするには、「**やり直し**」をクリックします。
8. 「**適用**」をクリックして変更を有効にします。  
テンプレートに定義したしきい値セットは該当するサーバから削除されません。

### 3.6.7 標準テンプレートの定義

3つの各サーバタイプ(物理サーバ、VM ホスト、仮想マシン)に標準テンプレートを定義できます。


しきい値セットがサーバに割り当てられていない場合、標準テンプレートに定義されているしきい値セットが使用され、サーバのしきい値監視が有効になります。

標準テンプレートを作成するには、以下の手順に従います。

1. 「**テンプレート**」ビューで、必要なサーバタイプに新しいテンプレートを作成するか、既存のテンプレートを開きます( [58 ページの 新しいテンプレートの定義](#)および [59 ページの テンプレートの変更](#)を参照)。
2. テンプレートビューで「**対象サーバ**」タブをクリックします( [45 ページの 対象サーバ\(タブ\)](#)を参照)。
3. 「**サーバリスト**」で「**すべてのサーバ**」サーバグループを選択します。
4. 「>」をクリックします。
5. 変更を元に戻すには、「**やり直し**」をクリックします。
6. 「**適用**」を選択して行った変更を保存します。

このテンプレートは、対応するサーバタイプのすべてのサーバ用の標準のテンプレートとして有効です。

## 3.7 テーブルのフィルタリング

特定の列で値または値の範囲を使用して、テーブル内のエントリをフィルタリングできます。テーブルヘッダーの右側のフィルタアイコンは、フィルタリングできる列を示しています。 

テーブル内のエントリをフィルタするには、以下の手順に従います。

1. 列の横のフィルタアイコンをクリックします。「**列のフィルタ**」ダイアログボックスが開き、「**標準**」タブが表示されます。[49 ページの 標準\(フィルタダイアログボックス\)](#)
2. 1つの値に基づいて列をフィルタするには、対応するテーブル行に表示する値を「**標準**」タブで選択します。
3. 値の範囲に基づいて列をフィルタするには、「**カスタマイズ**」タブを選択します。
4. 「**カスタマイズ**」タブで、この列に表示する値に対する条件を作成します。
5. 「**OK**」を選択してエントリを確認します。ダイアログボックスが閉じ、選択内容に従ってテーブルエントリが表示されます。フィルタされた列に表示されるフィルタアイコンが、濃い青に変わります。



## 4 Help のヘルプ

Help の情報を表示します

### 4.1 Help の呼び出し

Help の呼び出しにはいくつか方法があります。


- ダイアログボックスの情報: F1 キーまたは **Help** ボタン
- 画面エリアの情報: 選択している画面で F1 キー
- メイン画面の情報: **Help/Help**

### 4.2 お気に入りへ保存


ServerViewThreshold Manager help では2種類のお気に入りを保存できます。

- トピック
- 検索結果

#### 4.2.1 トピックをお気に入りへ保存

1. 保存したいトピックを表示します。
2. Help画面でツールバーの  アイコンをクリックします。そのトピックへのリンクが「お気に入り」タブの「お気に入り」に保存されます。

#### 4.2.2 検索結果をお気に入りへ保存

1. Help画面で「**検索**」タブを開きます。
2. 検索する文字列を入力します
3. **検索**をクリックします。関連性のあるトピックが表示されます。
4. 検索ボックス右の  アイコンをクリックします。そのトピックへのリンクが「お気に入り」タブの「お気に入り」に保存されます。

## 4.3 Help の検索

以下にしたがって Help を検索できます。

1. Help 画面から「**検索**」タブを開きます。
2. 検索する文字列を入力します。
3. 「**検索**」をクリックします。  
関連性のあるトピックが表示されます。
4. エントリをクリックします。  
トピックが右のウィンドウに表示されます。検索用語は強調表示されます。